

教師のウェルビーイング： イギリスの捉え方

2026年3月14日

イギリスの政策形成におけるウェルビーイング

生活満足度

2024年7月～9月期、国内成人の約20人に1人が、生活「低い」と回答

2024年7月～9月期、国内成人の4.7%が自身の生活満足度が低く評価した（2023年7月～9月：5.3%）でも長期的比較（2019年7月～9月：4.0%）でも変化は見られなかった。

出典：イギリス国家統計局『年次人口調査』

不安感

2024年7月～9月期、前日に強い不安を感じたと回答した国内成人数は2019年7月～9月期から増加

2024年7月～9月期、国内成人の22.5%が、前日に強い不安を感じたと評価。短期的比較（2023年7月～9月：21.5%）でも長期的比較（2019年7月～9月：20.4%）でも変化は見られなかった。

出典：イギリス国家統計局『年次人口調査』

人生における自身の活動の価値をどう捉えているか

2024年7月～9月期、国内成人の約25人に1人が、人生に活動に価値を感じることが少ない、と回答

同期間において、国内成人の3.6%が、人生における自身の活動に価値を感じることが少ないと評価。短期的比較（2023年7月～9月：4.0%）でも長期的比較（2019年7月～9月：3.9%）でも変化は見られなかった。

出典：イギリス国家統計局『年次人口調査』

幸福度

前日の幸福度が「低かった」と報告した国内成人の割合が安定して推移

2024年7月～9月期、前日の幸福度を尋ねられた国内成人の約8.2%が、前日の幸福度が低かったと報告した（2023年7月～9月：8.5%）でも長期的比較（2019年7月～9月：8.2%）でも変化は見られなかった。

出典：イギリス国家統計局『年次人口調査』

将来への期待

国内成人の約3分の2が将来を楽観視

2024年12月～2025年1月期において、国内成人の66.5%が将来を楽観的に捉えることが多いと回答。短期的変化は見られなかった（2023年12月～2024年1月期：67.8%）。比較データが存在しないため、長期的変化については評価なし。

出典：イギリス国家統計局『オピニオンとライフスタイル調査』

公平な扱い

国内成人の約5人に1人が、社会から非常に／やや不当な扱いを受けていると感じている

2024年12月～2025年1月期において、国内成人の19.2%が、社会から非常に／やや不当な扱いを受けていると感じると回答。短期的に悪化した（2023年12月～2024年1月期：12.6%）。比較データが存在しないため、長期的変化については評価なし。

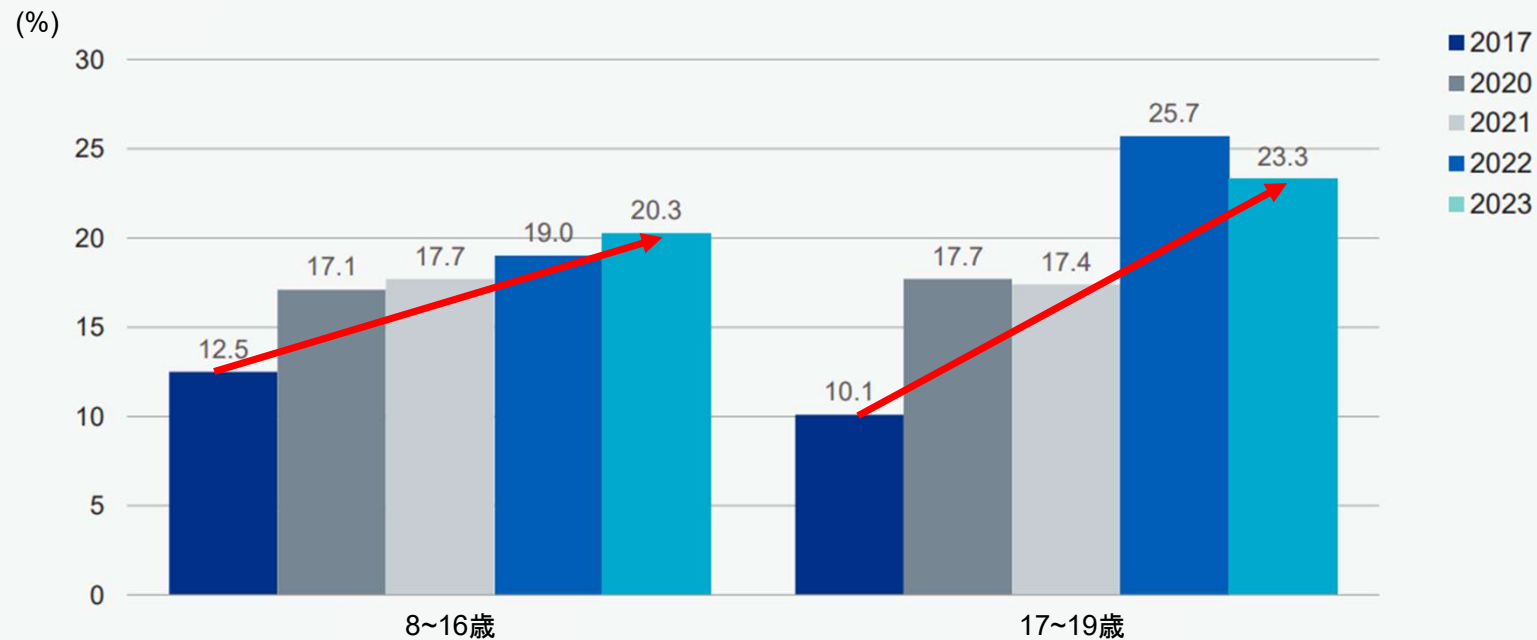
出典：イギリス国家統計局『オピニオンとライフスタイル調査』



- 個人のウェルビーイング**
個人のウェルビーイングは、人々の状態を最も直接的に示している。このテーマ領域の指標は、人々が現在のウェルビーイングの諸側面についてどのように思っているかを取り上げている。
- 関係性**
人々の関係性は、QoLや幸福度など、ウェルビーイングの結果に影響をもたらす要素である。このテーマ領域の指標は、家族や友人、身近なコミュニティとの関係性の有無や質を取り上げている。
- 健康**
心身の健康は、個人のウェルビーイングにとって重要な要素である。このテーマ領域の指標は、健康に関する客観的、主観的指標を取り上げている。また、国民の健康がいかに支援されているか把握するために、医療制度への満足度も扱う。
- 活動**
仕事と余暇活動への参加度、満足度、そして両者のバランスは、人々がどのようなライフスタイルを選択しているかを示している。このテーマ領域の指標は、仕事、余暇、ボランティア活動に関する主観的及び客観的指標を取り上げている。
- 居住地**
居住地、周辺地域やコミュニティの質、またこれらに対する感情は、個人のウェルビーイングに影響をもたらす要素である。このテーマ領域の指標は、住宅、地域環境、施設へのアクセス性に加え、一体感あるコミュニティの一員であるかを取り上げている。
- 金銭管理**
家計や個人の金銭管理方法は、生活の多くの側面に影響をもたらす。このテーマ領域の指標は、世帯所得と資産、貧困と金融格差、自身の経済状態に関する意見を取り上げている。
- 教育とスキル**
教育とスキルは、個人の社会的・経済的な結果を決定的に左右し得る要素である。このテーマ領域の指標は、人的資本に加え、資格やスキルを取り上げている。また、人々の教育がいかに支援されているか把握するために、教育制度への満足度も扱う。
- 経済**
経済は、個人やコミュニティ、ひいてはイギリス全体の財政福祉に影響をもたらす。このテーマ領域の指標は、国内の経済活動を取り上げている。また、国内経済状況に関する人々の認識を把握するために、消費者信頼感も扱う。
- ガバナンス**
優れたガバナンスはより良い社会・経済の結果につながる。このテーマ領域の指標は、公共の信頼と市民参加を取り上げている。また、公共行政がいかに支援されているか把握するために、警察や司法制度への満足度も扱う。
- 環境**
人々の暮らしや活動は、自然環境があるからこそ成り立つものであり、人々のQoLに大きく関係する要素である。このテーマ領域の指標は、気候変動、イギリスの視線環境と自然資本、環境にもたらす人間の活動の影響を取り上げている。

子供と若者

精神疾患の可能性が高い子供と若者の数について、2017年から2020年にかけて上昇後、2022年～2023年は全年齢層で安定的に推移



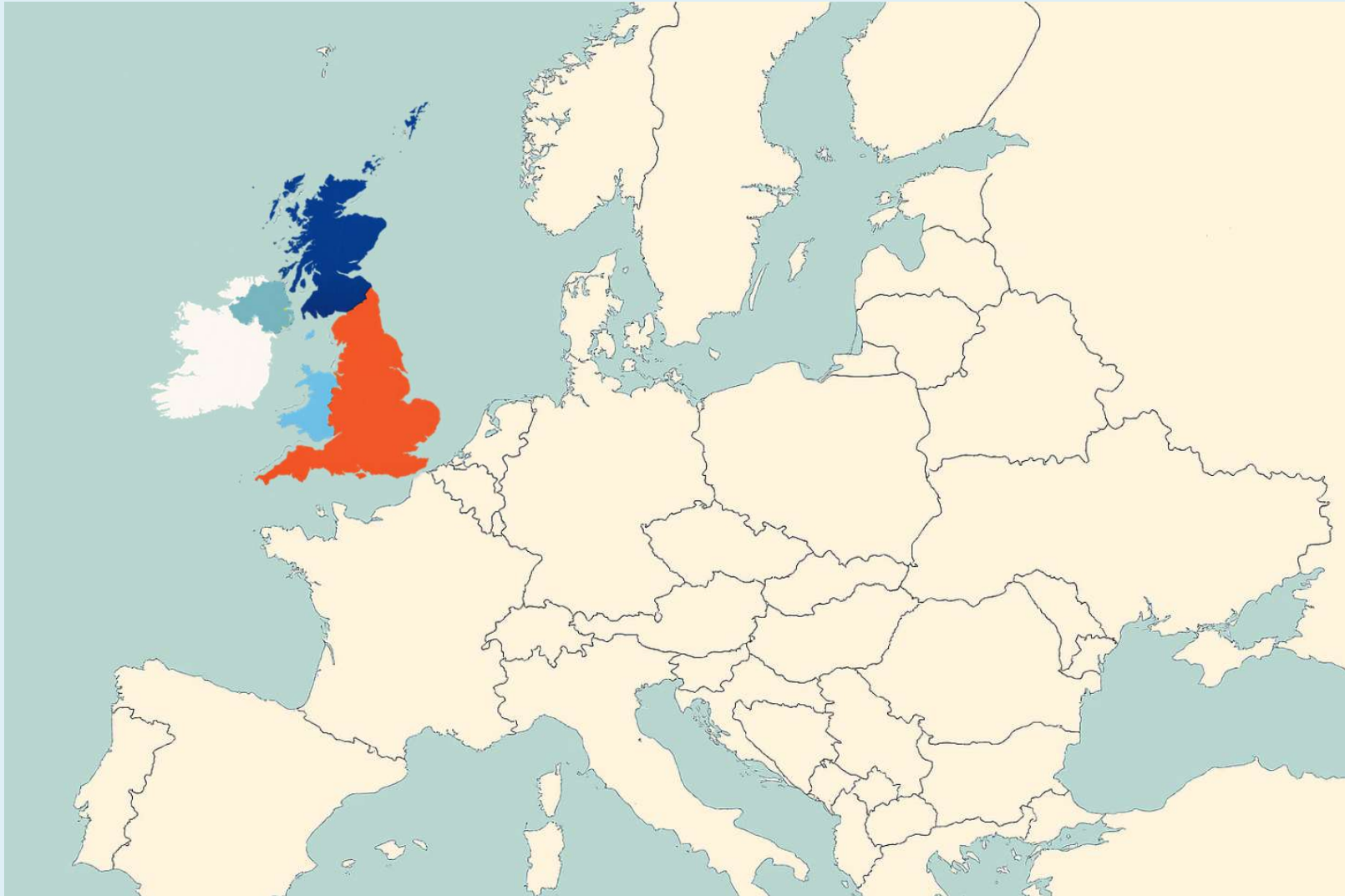
出典：NHS England. 2023年イギリスの8～19歳対象。レポート図1.2

12

イギリスの制度面で注力すべきポイント

- 子供と若者のメンタルヘルス
- 特別支援教育・障害
- ニューロダイバーシティ
- 学校での行動
- 学校と保護者の関係

グレートブリテン及び北アイルランド連合王国



Education Support

[Get help](#)[Resources](#)[About](#)[Get involved](#)[News & events](#)

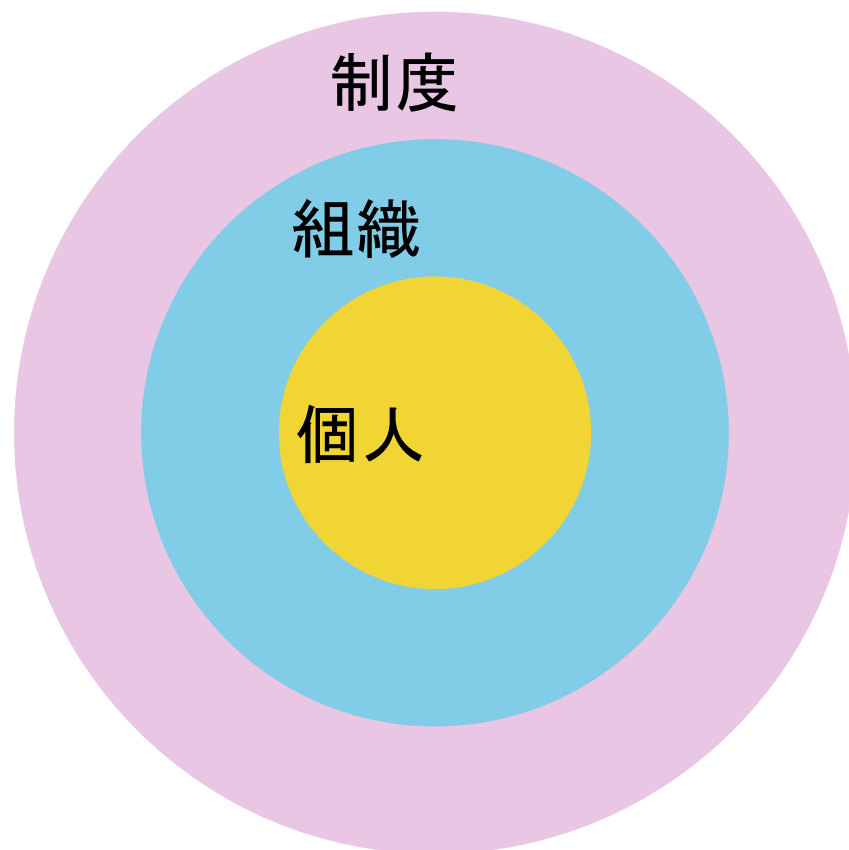
Helpline:
08000 562 561

[Grants](#)[Donate](#)

148年にわたり、教師・教育スタッフのウェルビーイングをサポート
Supporting teacher and education staff wellbeing for **148 years**

[Get Help](#) [Get Help](#) 

体系的視点—多層的レベル



Education Supportの取組

個人

- 電話相談サービス—無料、年中無休、秘密厳守
- デジタルリソース

組織

- 職員支援プログラム（**EAP**）：情緒サポート、学校が費用負担
- 専門的指導：マンツーマンの内省的実践（**reflective practice**）
通常、政府が費用負担
- 学校相談サービス：ウェールズ政府が費用負担
- コンサルティング／アドバイザーサービス：随時

全体的制度

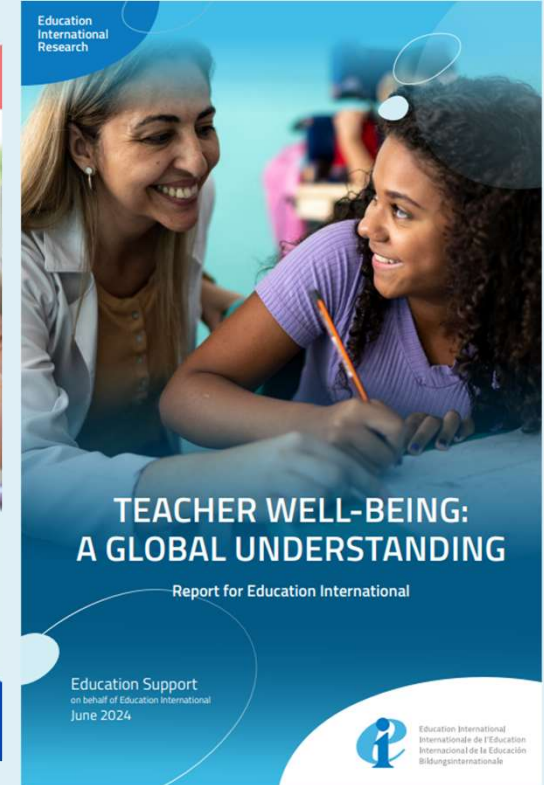
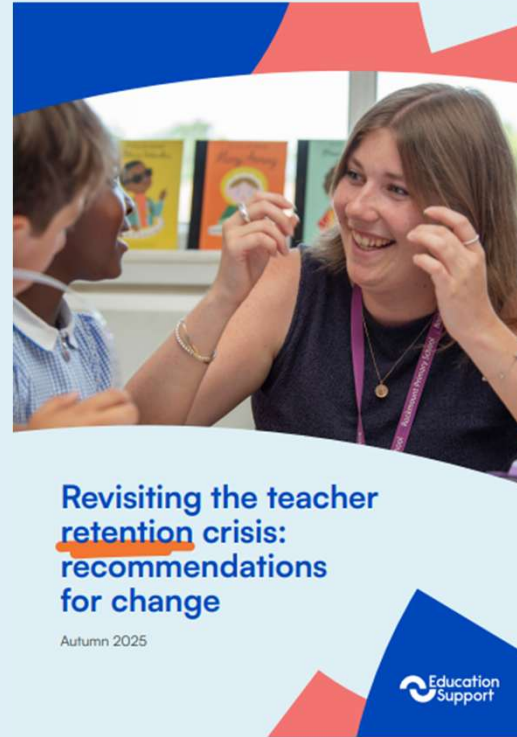
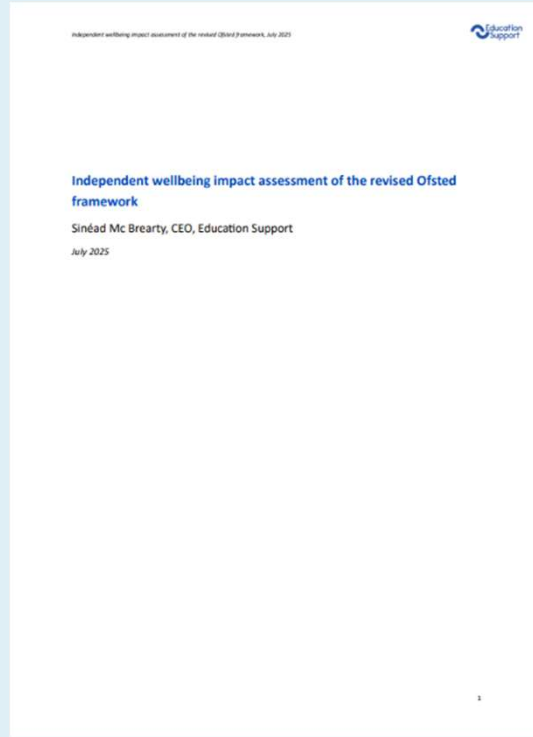
- 調査研究と提言

Education Support の実績

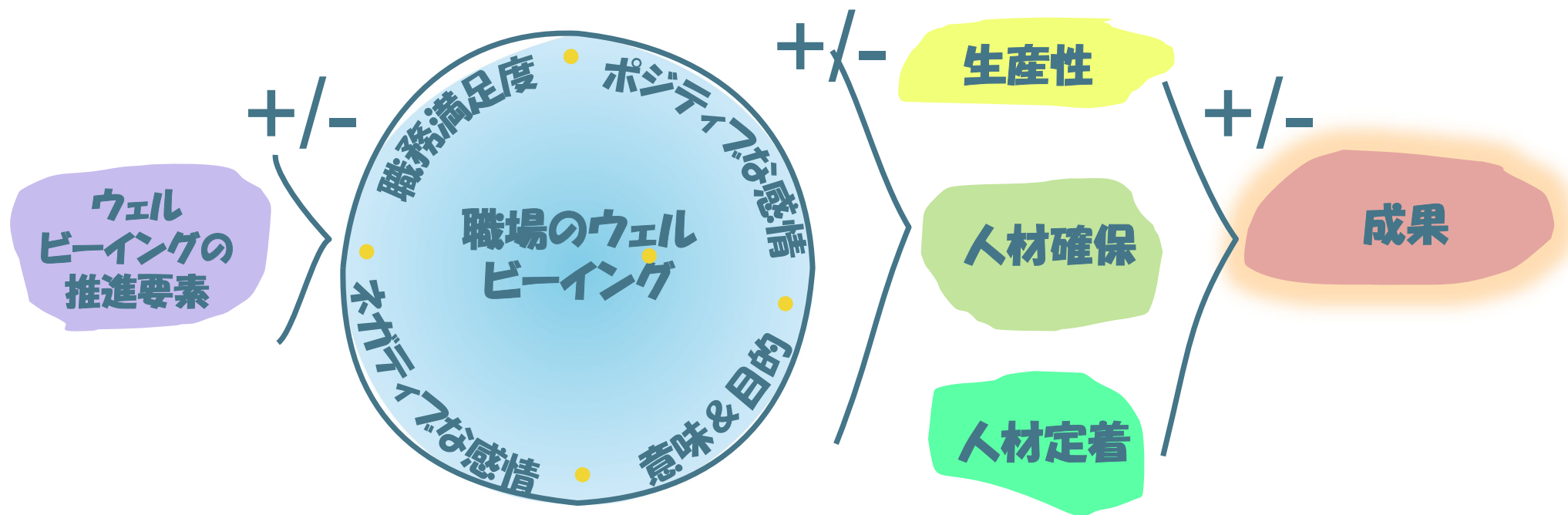
2025年3月期：

- 電話相談サービスで**4,877**人を支援
 - うち、**9.4%**が自殺リスクありと臨床評価
- **1,684**機関、**118,704**人の職員を**EAP**でサポート
 - うち、**10.9%**が自殺リスクありと臨床評価
- 学校指導者**923**人に専門的指導を実施
 - 報告者の**96%**が自身のストレスや不安への対応力が向上したと回答
- **256**校にアドバイザーサービスによるサポートを実施
 - **82%**が、受領したツールやリソースは適切かつ有用だったと強く同意
- **179,121**人が我々のデジタルリソースにアクセス

Education Support の実績



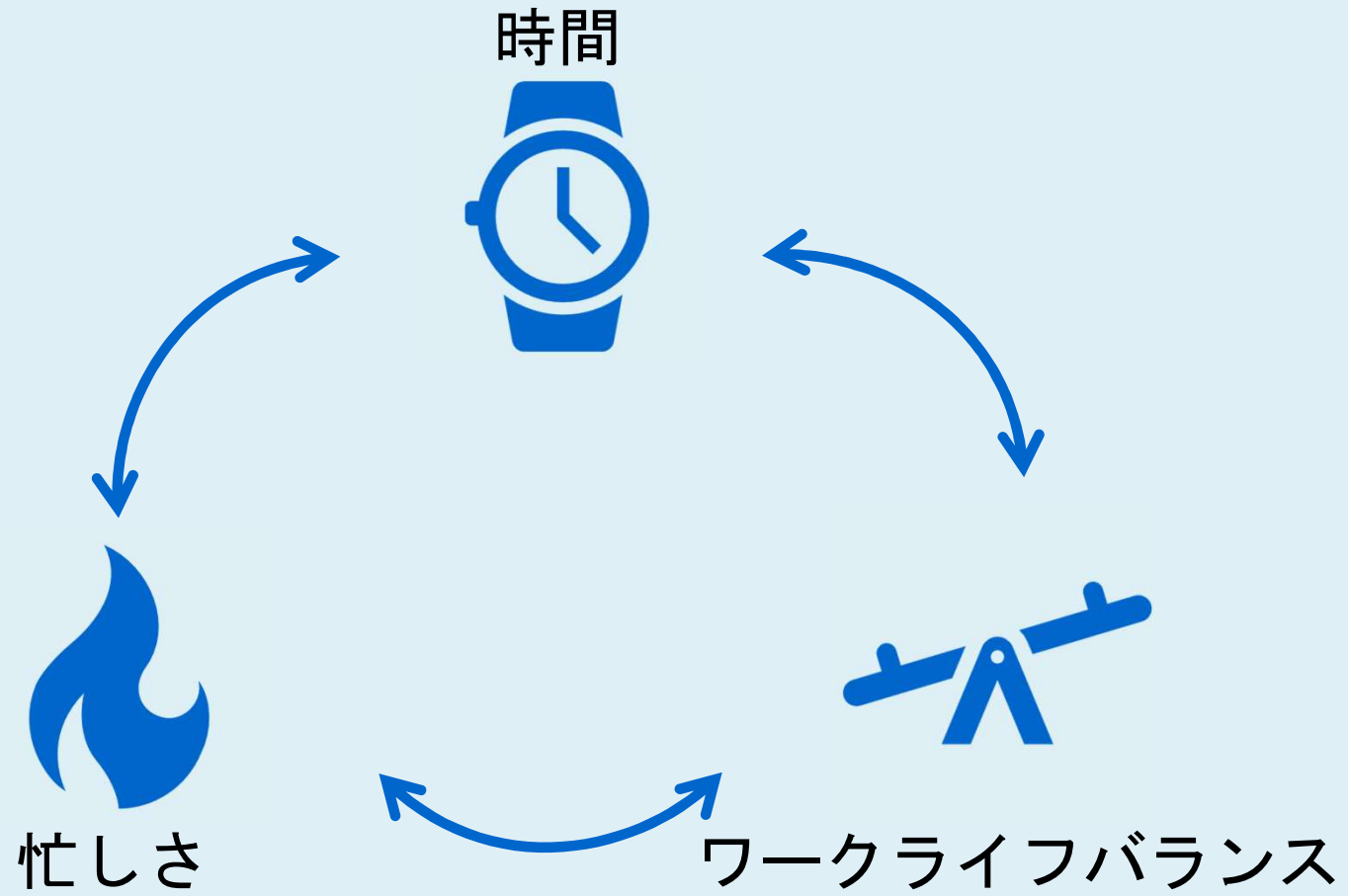
職場のウェルビーイング



イギリス教育現場における職員のウェルビーイング

- 教育—職務関連の健康障害を訴える声が多い「産業」トップ3にランク
 - 職務関連の疾患により、年間で労働日数253万日、18億ポンドの損失が発生
 - 教育部門における健康障害の53%は、職務関連のストレス、抑うつ感、不安が原因(全産業の労働者と比較して統計的に有意に高い)
- 政府による調査結果：
 - 教師・指導者の89%が職場でストレスを経験
 - 70%が、職務のために私生活を送る時間が足りないと感じている
 - 62%が、自分の職務が精神的に悪影響をもたらしていると感じている
 - 49%が、自分の職務が身体的に悪影響をもたらしていると感じている(同上)
 - 教師や指導者がイギリス公立学校からの離職を検討する二大理由—「業務量とストレス」、「ウェルビーイングの低さ」(両項目とも、離職を検討している回答者の90%が報告)

業務量



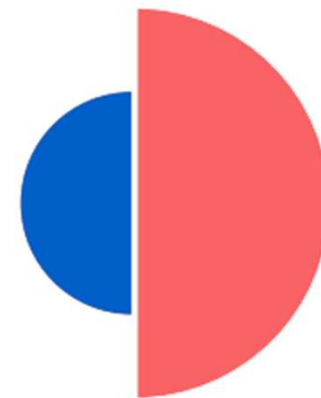
学校における職員のウェルビーイング

- 自校の文化に対する職員の印象は良くない
- 高い要求／低い裁量権
- 文化とリーダーシップ
 - 評価
 - インクルージョンと一体感
 - サポート
 - 信頼
 - マネジメント
 - 職員の声
 - 同僚性
- 世代格差

28%


自校の文化は職員のメンタルヘルスやウェルビーイングに**ポジティブ**な効果をもたらしていると感じる、と回答した教員の割合

2024年から+1% 



49%

自校の文化は職員のメンタルヘルスやウェルビーイングに**ネガティブ**な効果をもたらしていると感じる、と回答した教員の割合

 2024年から-1%

個人のウェルビーイング

- 生産性のパラドクス
- オーバーワークの文化を変革
- ストレス、疲労感、バーンアウトに関する理解
- 気持ちの切り替えを学ぶ

測定基準

主な測定基準

- 職務満足度
- 意味と目的
- ポジティブ傾向
- ネガティブ傾向
- 欠勤
- 疾病就業（**presenteesim**）
- 離職率／定着率
- 労働時間
- 自身の仕事の忙しさに対する印象
- 自身のワークライフバランスに対する印象
- 職場の文化に対する印象

イギリスにおける実践例：

- [Working Lives of Teachers and Leaders](#)
- [Teacher Wellbeing Index](#)



www.educationsupport.org.uk



sinead.mcbrearty@edsupport.org.uk

o